

平成31年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校 No1

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 確かな学力と進路実現の保障 「主体的・対話的に深い学び」の観点から授業改善を進め、思考力や表現力、主体性を持って協働して学ぶ態度の育成を図り、生徒の進路実現に資する。	①	教務課	ペアワークやグループワークを多く取り入れ、生徒が主体的に活動できる場面を増やしているが、今後の授業改善で、授業内容が生徒の学力向上に実際に結びついているかを確認できる評価方法の検討や、生徒が意欲的に協力して活動に参加できる仕掛けをする必要がある。	【満足度指標】 授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっている。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	②	教務課	習熟度別授業を国語、数学、英語で実施しているが、習熟度別授業が学力向上に効果的であると回答する生徒の割合は国語93.7%、数学88.9%、英語76.3%である。それぞれの学力層に合った効果的な指導について工夫していく必要がある。	【満足度指標】 習熟度別授業が学力向上に効果的な内容になっている。	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	③	進路指導課 3年	30年度入試国公立大学合格者は ア：難関10大学・国公立医学部合格者 4名（北大1、東北1、名大2） イ：金沢大学合格者 14名 ウ：国公立大学合格者 合計96名である。	【成果指標】 多くの生徒が高い進路目標を達成している。	ア：難関10大学・国公立医学部合格者5名以上 イ：金沢大学合格者20名以上 ウ：国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
	④	進路指導課 1年 2年	年間の平日家庭学習時間の平均が、1年生2.3時間、2年生3.0時間、また、休日は1年生3.0時間、2年生3.7時間である。個々の学習時間に差があるので、全体が達成できる目標を設定し、指導していく必要がある。	【成果指標】 1・2年生の年間平日家庭学習時間3時間以上の達成者割合で判断する。	年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 1・2年生ともに 65%以上 B 1・2年生ともに 50%以上 C 1・2年生ともに 35%以上 D 1・2年生ともに 20%以上	C、Dの場合、改善策を検討する。	個人面談、基準達成に必要な授業の予習指導、家庭学習時間調査を行う。
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの励行から始まる全ての教育活動の中で、規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	①	生徒指導課	本校では、毎朝3～4名の教員が輪番で登校指導を行っている。生徒もクラスから一人ずつ参加し、その重要性を自覚する良い機会となっている。生徒会執行部や部活動単位でも挨拶運動を行っているが、まだまだ徹底しているとまでは言えない。昨年度「必ず挨拶する」「だいたい挨拶をする」と回答した生徒は93%であった。「挨拶する生徒が100%」を目指して、今年度も継続して取り組み、指導していく。	【努力指標】 生徒が自ら進んで挨拶を行っている。	第2回学校評価（生徒）で、「挨拶をしていますか」の間に、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合（①+②）が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。
	②	生徒指導課	いじめ問題やネットトラブルの発生を未然に防止するために、教員・生徒を対象とする講習会等を実施している。いじめ問題が発生した場合は、学校と家庭が連携を深め、教員が一致協力して問題解決に当たる体制を構築している。	【成果指標】 教員が、研修等を通していじめ問題やネットトラブル等の防止・対応・解決策について理解を深め、生徒への適切かつ有効な指導に結びつけている。	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。

	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	③			【成果指標】			
	文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	生徒会指導課	平成30年度は北信越（北陸）大会以上に11部が出場を果たした。内、全国大会（総体）には4部が出場を果たした。	北信越・北陸大会以上の大会への出場を果たす。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～9部 D 6部以下	Dの場合、改善策を検討する。	2月に最終調査を実施する。
	④			【成果指標】			
	基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健相談課	学校評価で「毎日きちんと朝、昼、晩の食事を摂っている。」と答えた生徒は昨年は92.1%であった。しかし、「バランスの良い食事を心がけている」と答えた生徒は77.5%と前年からやや後退している。	生徒がバランスの良い食事を心がけている。	保健・相談課のアンケートでバランスの良い食事を心がけていると答えた生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%未満	Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	7月、12月の学校評価を利用して調査で判断する。
	⑤			【成果指標】			
	部の顧問に協力を得て部活動単位で校外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	生徒会指導課	24部中17部が複数回ボランティア活動を実施した。	生徒が部活動単位で複数回ボランティア活動を実施する。	複数回ボランティア活動を実施した部の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上	Dの場合、各部顧問に積極的な活動参加を求める。	1月末に生徒会指導課で調査する。
	⑥			【成果指標】			
	『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書を紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	図書情報課	昨年度1年間の生徒一人当たりの貸出数は、県内平均を上回る4.1冊であった。	図書の貸出数が、生徒一人当たり、4冊以上となる。	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上であった。 B 3冊以上であった。 C 2冊以上であった。 D 2冊未満であった。	C、Dの場合、改善策を検討する。	月毎の図書貸出数の統計で判断する。
	⑦			【成果指標】			
	体育の授業で体づくり運動やチーム練習を主体的に取り組み、体力の向上を図る。	保健体育科	現在スポーツテストの種目で男女とも8種目中男女平均で2.3種目が全国平均を上回っている。	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が6種目以上となる。	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が8種目中 A 6種目以上 B 5種目以上 C 4種目以上 D 3種目以下	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月のスポーツテストの結果を集計する。
3	地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティアなどの様々な活動を通して地域と連携し、地域に貢献できる人材の育成を担う学校として、開かれた、信頼される学校づくりに努める。	① 総務課 ② 教務課	① 体験入学等の情報をポスターやホームページで提示している。体験入学参加者は、昨年度は378名、一昨年度は398名であった。 ② 羽咋郡市に加え、河北・七鹿地区の中学校でも出前授業を行い、地区別を見直し、地区説明会の回数を増やし、内容も充実させた。しかしその結果、倍率は1.02倍であった。羽咋郡市を含めた能登地区の少子化は深刻であり、定員を満たす生徒を確保するため効果的な広報活動が必要である。	【成果指標】 【成果指標】	① 体験入学参加者によるアンケート調査で満足度が80%を上回る。 A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。 ② 一般志願倍率が1.1倍に対して A 上回った。 B 同程度であった。 C 下回った。 D 大きく下回った	Dの場合、改善策を検討する。	① 体験入学参加者（7月）によるアンケート結果で判断する。 ② C、Dの場合、広報活動の方法を見直す。 年度末に評価する。
	③			【努力指標】			
	保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	図書情報課	昨年度の保護者アンケートにおいて本校のホームページが「役立つ」「やや役立つ」と答えた保護者は67.5%である。以前と比較して増えているが、まだ増やす余地がある。	教職員全員が、本校の教育活動の理解に役立つ見やすいホームページ作りに努める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「1役立つ」「2やや役立つ」と答えた保護者の割合（1+2の合計）が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	保護者アンケートで判断する。
4	教職員の多忙化改善 多忙化改善の取組として、放課後の働き方に対する意識改革と時間外勤務時間の縮減を目指す。	① 教頭	平成30年度における時間外勤務時間調査において、月平均が約50時間であり、80時間超えの教職員も数名いた。	【成果指標】 教職員全員が多忙化に向けた改善を意識することを目標とする	学校評価（教員）で、「多忙化改善に向けた取組」の間に、「1意識できた」「2だいたい意識できた」と答えた教員の割合（1+2の合計）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	7月、12月の学校評価を利用して調査で判断する。